

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の意義と理事長の想いを職員全員で確認し、健康で安定した地域生活の継続支援と地域との関係性を重視した理念をつくりあげている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示・朝礼時の唱和はもとより、ミーティングでの話し合いを行ない、具体的なケアについて意見の統一を図っている。また、職員採用時の研修科目として位置づけ理解してもらうようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月ホーム便りを発行するとともに、見学者や面会の方にわかりやすいよう、玄関にホーム便りを掲示し、折にふれ繰り返し伝えるようにしている。	○	今後は町内会の回覧板の広報に載せてもらう取組みをしたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に買物や散歩に出かけた際でのふれあいや、天気の良い日は、玄関前での日光浴・お茶会の際に声を掛け合うことも多い。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初より町内会に入会し、できる範囲内での参加はしている。また、個人別に在宅時参加されていた会合への参加等もできるだけ継続できるよう支援している。	○	ご利用者自身が、楽しめる場面だけでなく、役に立っていると感じてもらえるような働きかけをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症ケアの人材育成をするためにも、実習生の受入れや職場交流を積極的に行っている。また、随時、認知症や介護等に関する相談も受けている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は、ミーティング等にて全員で行ない、意義や目的を理解した上でサービスの質の向上に努めている。また外部評価の結果を受け、改善に向けて具体案の検討を全職員で行ない実践に繋がられるよう、職員の意見箱を設置している。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>前回での検討事項についての経過報告や、現状でのサービスの実情や、取組み内容について報告するとともに、現在直面している問題点なども報告し、できるだけ多方面での意見を改善事項として活かせるような会議の内容にしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム部会や、包括支援センターのブロック会議など、積極的に管理者以外も出席できる機会をつくり、話し合いができるようにしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>各種研修に参加したり、職場研修の内容としているが、現状で必要な利用者がいないため、職員間での理解が不十分である。</p>	○	<p>具体的な事例を学び、必要な時に活用するために、外部研修を計画的に受けさせるようにしたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員採用時の研修科目とし、高齢者の尊厳を守るため、専門職としての法令遵守事項であることを教育している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>できるだけ、申込みの段階で説明し、方針や方向性、また看取りや退所要件を理解してもらえているようにしている。また、分かり難いことは都度電話等での相談に応じ、十分な理解を得た上で契約に臨んでもらっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃、話しやすい雰囲気づくりを心がけるとともに、利用者の言葉や態度から、不満や不安を感じていないか記録に残し、職員間での話し合いで、その思いを察して利用者本位のケアに繋がるようにしている。</p>	○ 外部者へ表せる機会は設けていないが、今後の検討課題としたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホーム便りを発行し、全体の様子と、個人別にもお手紙にて毎月様子を知らせている。また、金銭出納帳のコピーを同封し使途の確認をして頂いている。写真が一番分かりやすいので、ホーム内に貼りだし、面会時に説明している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を玄関に設置している。運営推進会議・ホーム便りにて、苦情等が言いやすいホーム作りを言っているが、直接には上がってこない。管理者が家族の面会時に声をかけ、問いかける等の工夫をしている。</p>	○ 外部者へ表せる機会は設けていないが、今後の検討課題としたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング・勉強会を定期的に行ない、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。提案や意見を反映させたいので、都度テーマを決めて、無記名で意見が出しやすいように、意見BOXに入れてもらうようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務時間帯については、利用者を第1に考慮し、日頃の要望や状態に合わせるため、話し合いながら何度か変更している。また、管理者は通常のシフトに入れていないため、急な対応がとれる体制としている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職等による利用者へのダメージを運営者は理解しており、職員間の連携がとれるよう、福利厚生や給与面でも考慮している。それでも離職がやむを得ない場合は、その時期や引継ぎの面で、影響が最小限となるよう努力している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者は、できるだけ多くの職員に研修に出られる体制を指示している。それを受け、管理者が研修計画をたて、受講させるようにしている。研修報告書を全職員が閲覧し、情報を共有できるようにしている。また、全員が受講できるように、社内研修を計画し、合わせてミーティングを行うなど、職員が時間外労働にならないよう配慮している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会での関係づくりや、関係者との連携は十分にできており、多方面でのネットワークができています。また、すぐ近くのグループホームと連携し、互いに運営推進会議に参加したり、非常時に連絡しあう等の取り組みをしている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、職場環境をよくするために、管理者の意見を尊重し改善できるよう努力している。管理者は常に職員の健康状態や職場の雰囲気を観察し、運営者に報告するとともに改善案を実践できるよう働きかけている。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員が自己評価を行った上に上司が評価をしている。各自が目標をもち、その努力や実績を評価できるように努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談ケースは、家族からのことが多く、家族からの聞き取りがほとんどであるが、必ず本人と一緒に見学してもらう機会をつくってもらうようにしている。その際、無理のないように本人の思いを聴くようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話による相談や、見学に来られた際に、できるだけ時間をつくり、これまでの経緯やサービスの利用状況などのお話を聴くようにしている。事業所としてどのような対応ができるか説明し、納得してもらった上で申込みをしていただくようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談ケースごとに現在必要なサービスや支援内容などを情報提供し、緊急性も含め、他のサービス事業者等と連携する対応をとっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近申し込まれたケースでは、4月頃より共用型のデイサービスを開始する旨を説明し、出来るだけ、本人の混乱のないように利用に勧められるよう話し合いをしている。また、すぐに利用になった場合には、本人が不安にならないよう家族の協力を依頼するとともに、職員の関わりも密にできるような配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である皆様に日々いろいろなことを教えて頂いているという意識をもち、介護の場面以外での会話やふれあいを共有し、いっしょに笑いあえる関係づくりをしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	開所当初は余裕もなく、一方的な思いを伝えることが多かったが、日々の暮らしぶりや気づきを職員間で共有し、面会等での情報交換ができるようになってきている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日頃の状態を折りにふれ報告したり、行事に誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。今年は年賀状を本人に書いてもらいご家族に送付した。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や会合などは、可能な限り出掛けられる配慮をし、近隣の場合はお墓参りや親戚やお友達の所に出かける等の対応もしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活のため、利用者間の仲の良し悪しに十分配慮し、できるだけ皆で楽しく過ごす場面づくりをするなど、利用者同士の関係がうまくいくように調整役となっている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>今までの事例はないが、信頼関係の継続は大切にしている。</p>		
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>				
<p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の援助や関わりの中で、本人の様子や言葉や表情などを観察し、記録に残し、職員間で本人の視点にたつて意見を出し合う取り組みをしている。</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>一度に聞き取りするのは難いため、プライバシーに配慮しながら少しずつ情報を収集し経過記録やフェースシートに追加している。</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>各利用者の生活リズムを理解し、特に本人のこだわりであったり、習慣にされていることを大切に、できないことより、できることへの支援に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いに添った実現可能な介護計画とするために、実施記録やモニタリングの情報収集を工夫し、家族や本人の意見も取り入れ職員間で話し合うよう努めている。</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>一ヶ月ごとにモニタリングを行ない、状態変化や実施等の対応ができない場合は、計画期間中でも話し合いを行ない、計画の変更をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施記録と介護記録が日々連動するように工夫し、情報が共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療法人としての特徴を活かし、十分な医療連携体制をとり、必要な際は医療処置を受けるなど、入院の回避と重度化の対応をしている。また、4月からはデイサービスとショートステイを実施する予定であり、より多方面でのニーズに応えられると考えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域での資源の把握に努め、ボランティアの受入や近くの書店を活用したりしている。交番や近くのホームと連携することにより事故防止を図っている。	○	今後は公民館活動にも加わっていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを現状では受けていない。地域の事業者と話し合う機会は密にあるので、必要性があれば活用できる支援体制としている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域の周辺情報や支援に対する情報交換など、協力関係を築いている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。(基本的には代表者が主治医となるが、入居までのかかりつけ医を継続希望される場合は、家族対応にて受診されている。)		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>代表者(医師)が認知症に詳しい医師と関係を築いており、利用者の状態変化等の相談や診断を受けられる体制は整っている。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>入居者が以前より代表者(医師)の患者さんであったケースが多く、医院の看護師より、在宅時の様子などの情報や日常の健康管理についての相談は常にとれる体制になっている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院に至らないように努力しているが、入院された場合には、入居時の情報提供をすぐに行ない、定期的に入院先に状態を確認し、できるだけ早期に退院できるようにしている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時の家族等への意向確認と、状態の変化時に再度確認するなど随時行っている。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在重篤な対象者はいないが、今後のために、代表者(医師)と検討する準備をしている。現状で、できることとできないことの区分はできているが、国の方針として、どこまで介護職員でできるようになるかの決定を待ち、さらに検討を加えたい。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>不安の増強や状態が急激に変化しないよう、事前に情報交換を行ない、必要に応じ、訪問するなどの配慮をしている。また、介護計画についても、継続支援をしてもらえるよう情報提供している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>勉強会やミーティング時に、職員の意識向上を図っている。 (利用者のプライバシーや尊厳を損ねない対応ができるように、不適切な事例などわかりやすい説明をおこない説明するようにしている)</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>飲み物やおやつを選んでもらったり、食べたい物をうかがったり、いっしょにメニューを考えたりするようにしている。また、表情や雰囲気を観察するなどして、職員の側で決め付けない等の配慮を心掛けている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間やお風呂の時間など、一応の時間は決めているが、本人のペースに合わせて対応している。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望のある場合は、美容院等は行きつけの店に行ってもらえるように支援するとともに、近隣の理容院に行ける人は付添って行き、行く事が出来ない人は来ていただくようにしている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材を切る・皮をむく・混ぜる・味見をする・食器を並べる・片付けをする・茶碗を洗う・茶碗を拭くなど、1人1人ができることをしてもらえるようにしている。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>喫煙者は現在いないが、寝酒を飲む人の支援や、お茶は飲みたい時に自分で入れて飲めるようにしている。乳製品やお菓子の飲み物も希望を聞きながら対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	オムツをしている人も、全員がトイレやポータブルで排泄していただくように、排泄時間を一人ひとり確認しながら、誘導と介助を行っている。また、むやみに紙おむつを使用しないように検討し、本人の自尊心を傷つけないように配慮している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴や毎日入りたい、朝の方がいいという希望も随時対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく、日中に活動し夜間ゆっくり休めるよう、生活リズムを整えるよう努めている。夕方になり落ち着かなくなる認知症高齢者の特徴を配慮し、できるだけ夕方も穏やかに安心して時間が過ごせるように、職員の動きや声のトーンなどを工夫する対応に取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	針仕事や、洗濯物を干す・たたむ等はもとより、新聞を取りに行く方、カーテンを開け閉めする方などの役割分担が自然に出来上がっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は家族の了解の上、自分で少額のお金を所持しておられ、希望に応じ買物の支援も行っている。また、金銭管理のできない方については、お小遣いとして事務所で管理し、必要に応じ、本人にお渡しして使う機会をもってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かける人や、買物について行かれる人、天気の良い日は玄関前で日光浴やお茶を飲むなどの支援をしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日の支援として、いろいろな希望を伺っている。喫茶店や墓参りなどの希望に対応している。遠くの外出については、予め計画をたてる等の時間があれば可能だが、家族の協力も期待したい。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に掛けてもらっている。手紙の代筆や年賀状のやりとりなどもしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会に来られた方が、気兼ねなくゆっくり過していただけるよう、椅子を用意した。ホールでも皆さんと触れ合っていただけるように補助椅子を置くようにしている。面会時間は決まっているが、時間外でもチャイムを鳴らしてもらえばいつでも訪問可能な対応としている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規採用時の研修内容としており、職員は十分に理解している。危険回避と思われる身体拘束についても、しないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は鍵をかけていたが、夜8時までは、全ての鍵をかけないケアに取り組んでいる。天気の良い日は玄関を開放し、いつでも自由に入出りできるようにしながら、見守り体制がとれるようになってきた。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じフロアで必要な記録等を行ないながら、さりげなく全員の状況を把握している。夜間も2時間毎に巡回をそつと行ない、休憩は廊下のソファで休み、起きられたらいつでも対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況にあわせ、嚴重に保管するもの・管理が必要なもの・利用者が使うときに注意するものなどを分けている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを整備し、随時研修をしている。また、事故報告書やヒヤリハットを活用し、利用者に合わせて事故防止や対策を検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署や研修機関等の訓練にできるだけ参加させるようにしている。また、消防署の協力のもと年1回、避難訓練実施の際に蘇生法や救急手当での勉強会をするよう計画している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回の計画的な避難訓練の実施及び設備点検をしている。また、日頃から器具の使用や通報の仕方、避難経路や手順などが身につくように突発的に研修や避難訓練を実施するようにしている。	○	災害時の食料や水、その他の物品につき検討後準備するようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	自由をとるか危険性(リスク)をとるかの説明は、見学・契約時から繰り返し行い、運営推進会議でも話しあっている。グループホームとしての機能を十分生かし、自由な明るい生活を維持しつつ安全面の対策を強化できるようにしたい。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル測定を行うとともに、体調や些細な表情の変化などいつもと違う等の早期発見に取り組んでいる。変化等あればすぐに管理者に報告するとともに、必要に応じ、医師や看護師に報告し、適切な対応にあたっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の記録様式に、利用者個々の服薬内容を添付し、常に確認できるようにしている。また、臨時薬などの投与についても用途や日付の確認などが、できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜や繊維を多く含む食事を工夫し、水分の摂取状況を把握し、一定時間に便座に座ってもらうことに心がけ、できるだけ下剤に頼らない排泄の取り組みを始めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食時の口腔ケアは、それぞれに応じた能力を鑑みながら、適した援助を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有できるようにしている。また、往診や体調不良時など医師に報告し、適切な指示をもらうようにしている。</p>	
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>各種のマニュアルを作成し、全職員で予防・対策に努めている。また、面会時の注意事項を貼りだし、マスクや消毒液や紙コップ等の予防用品を用意している。インフルエンザの予防注射は全利用者・全職員が受けている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>布巾やまな板などは毎晩消毒を実施している。新鮮で安全な食材を使用するため、毎日買物をする事としている。また食材の賞味期限の点検や始末を頻回に行なうとともに、冬場でも食事の残りは2時間以上たったものは捨てることにしている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関は自動ドアだが、普段は手動として、常に開放できる状態にしている。周囲は洗濯物を干したり、プランターを置いたりしている。干し柿をつるしたりや切干大根を並べたりしている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間には、季節の花をたくさんかざり、和んだ暖かい雰囲気大切にしている。不快な音や光はなく、いつでも誰かがそこにいて、いつのまにか話ができる空間をつくることに努めている。また、食事の準備中の音やにおいが、自然に利用者に伝わり生活感をもってもらえるようになっている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれのお気に入りの場所や居場所があり、ホールの他にも集まれる空間や1人で座れるスペースをつくっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や写真を飾る、コタツや畳を敷くなど、それぞれに利用者の心地よさなど、家族と相談しながら配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールや廊下は一定時間及び掃除の際に換気している。温度・湿度計を設置し、外気との温度差を考えながら調節している。冬場は乾燥に注意し、加湿器を使用し風邪の予防に気をつけている。トイレは常に換気扇と消臭剤で悪臭がでないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の活動に適した車イスやキャスター式の歩行器を使用したり、抑制せずにセンサーマットにて安全性を保つ、立ち上がりに必要なベットの柵を状態に合わせて用意するなどの工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	お部屋の前に写真を貼り、わかり易いようにしたり、トイレの表示など状況に応じ、その都度適した援助の仕方を話し合っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物前のプランターには時期に応じ、ねぎを植えたり花を植えたりして、水遣りや草抜きも利用者中心にしている。また、出来るだけ洗濯物は外に干し、いっしょに取りこんだり、とても良い日光浴の場所となっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私たちは、あした葉に住む入居者と家族の皆様の声に耳を傾け、願いを大事にし、共感しながら共に安心した生活、健康な生活をおくることができるように援助します。また、地域に根ざした取り組みを積極的に行ない、みなさまを地域で支えあえる町づくりに貢献していきます。